

## 2023年度 太田看護専門学校 自己点検・自己評価結果

### 1. 自己点検・自己評価目的

自校の教育活動および学校運営の状況についての評価を行い、運営の改善点を明らかにし教育水準の向上並びに設置目的を達成するために組織的・継続的に取り組むことを目的とする。

### 2. 実施方法

学校評価は厚生労働省の「看護師養成所の教育活動等に関する自己評価指針」を基に、9カテゴリーの評価を各職員が3段階評価し（できている：3点 まあまあできている：2点 あまり若しくはできていない：1点）平均点を抽出し考察した。授業評価は科目ごとに学生が本校作成の評価表（20項目）を用いて評価し、すべての学科目の平均点を抽出し考察した。

### 3. 自己点検・自己評価委員会組織

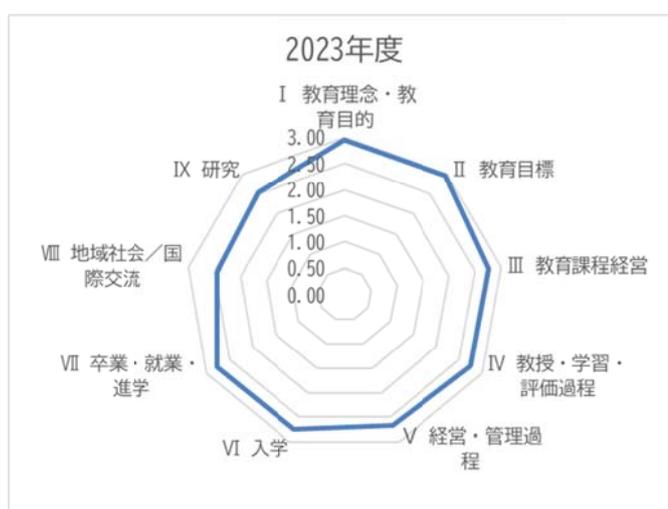
太田看護専門学校自己点検・自己評価委員会が学校評価を行い、授業評価実務委員会が授業評価を行う。

### 4. 自己点検・自己評価結果

#### ①学校評価結果

表1 カテゴリー毎の平均点数

	評価項目	2023年度
I	教育理念・教育目的	2.94
II	教育目標	2.97
III	教育課程経営	2.77
IV	教授・学習・評価過程	2.75
V	経営・管理過程	2.67
VI	入学	2.75
VII	卒業・就業・進学	2.79
VIII	地域社会／国際交流	2.43
IX	研究	2.55



昨年度からのカリキュラム改正にむけて話し合いを重ねてカリキュラム構築を図ってきたことが、カテゴリー「I 教育理念・教育目的」「II 教育目標」の高い結果につながっていると思われる。昨年度は「IX

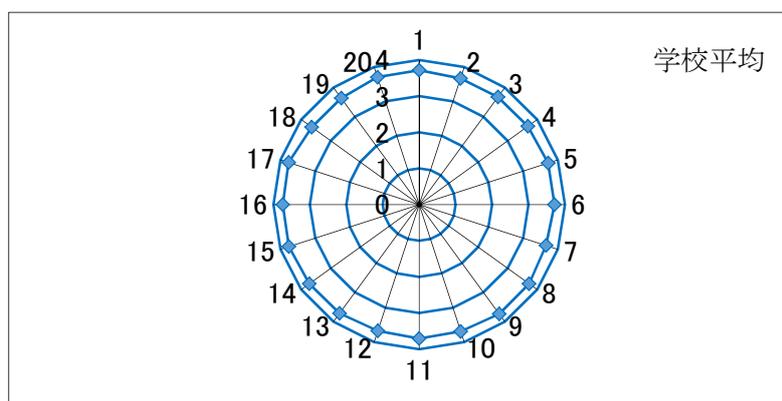
研究」が「2.14」と最低であったが、研究に取り組む時間の確保や個人の希望をとりいれたことにより改善している。「VIII 地域社会／国際交流」は昨年度「2.16」であり、国際交流の項目の中でも留学に関する項目が低い状況であった。前例に留学に関する該当者がいないことから、常時受け入れ体制は整えていないが、海外での就職に必要な手続きの実施などが周知されていなかったことが原因と思われた。そこで、職員内で情報共有を図ったことが改善につながったと考える。今後も情報の共有と発信につとめ、卒業生にも十分な情報を得られるようHPの充実を図っていく。

## 【学校集計】 学生数225名

学校名 太田看護専門学校

	質問番号	質問事項	学校平均		
			2023	2022	昨年比
授業内容と構成	1	教育目標と科目のつながりが理解できた。	3.72	3.77	-0.05
	2	授業の要点が分かりやすかった。	3.67	3.73	-0.06
	3	授業の結論が明確だった。	3.68	3.75	-0.07
教育技術	4	学生への質問の内容・量は適切だった。	3.69	3.75	-0.06
	5	説明の際の用語や事例は適切だった。	3.72	3.76	-0.04
	6	教材の使用は適切だった。	3.71	3.78	-0.07
	7	教員からの一方的な講義ばかりではなく、学生も参加できた。	3.66	3.73	-0.07
	8	教員は学生を尊重した態度で接していた。	3.73	3.77	-0.04
	9	教員自身の意見や考えを適度に現していた。	3.74	3.79	-0.05
	10	教員の説明は、具体的でわかりやすかった。	3.69	3.73	-0.04
	11	教員の声は聞き取りやすかった。	3.71	3.77	-0.06
	12	教員は、学生の理解度を確認しながら授業を進めていた。	3.67	3.74	-0.07
	13	課題の量は適切だった。	3.72	3.78	-0.06
	14	課題は授業の理解に役だった。	3.73	3.79	-0.06
学生自己評価	15	課題には意欲的に取り組んだ。	3.76	3.82	-0.06
	16	授業には興味を持って取り組んだ。	3.74	3.79	-0.05
	17	授業には集中して取り組み、準備物を忘れたこともなかった。	3.77	3.81	-0.04
	18	自分の授業態度は、私語や居眠りなどはなかった。	3.64	3.72	-0.08
	19	わからないことは、自分から質問したり、自己学習をしたりして解決に努めた。	3.64	3.71	-0.05
総合評価	20	全体としてこの授業に満足している。	3.71	3.77	-0.06

## 【質問別得点】



総評 平均点は3.71と前年度に比較し全体的な評価が低下しているが、新カリキュラム2年目となる1学年での比較では0.04ポイント上昇している。新カリキュラムはEATを取り入れている。学生からは実習前は教科書でイメージしながら、実習後は実習の学びを繋げて授業を受けられたとの意見が聞かれた。実習での経験と授業内容の積み上げを検討し取り組んだ成果と考える。一方で、実習での学びと授業の重複を指摘する意見もあり、更なる授業内容の精選と工夫が課題である。電子テキストについて2画面表示や検索などの機能を活用することによって科目間のつながり等理解につながったと考える。今後は学生の自己評価が低かった主体的に取り組むことができるような授業の工夫をしていく